

企画展 昭和南海地震 80 年

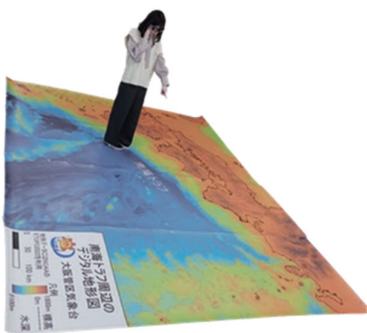
地震の科学 ―記録が語る過去、科学が解く仕組みと備え―

1946 年(昭和 21 年)12 月 21 日に発生した昭和南海地震から 80 年の節目になることから、大阪管区気象台と大阪市立科学館の共催で、「企画展 昭和南海地震 80 年 地震の科学 ―記録が語る過去、科学が解く仕組みと備え―」を大阪市立科学館展示場1階で開催します。開催期間は 2026 年 7 月 18 日(土)から8月 30 日(日)までとなります。

南海トラフ地震は、静岡県沖(駿河湾)から九州沖(日向灘)にかけてのプレート境界を震源域として、およそ 100 年～150 年間隔で繰り返し発生してきた大規模地震です。甚大な被害が発生した昭和南海地震から、2026 年で 80 年になるため、次の南海トラフ地震はいつ起きてもおかしくない状況です。企画展を通して、過去の南海トラフ地震の記録と教訓を改めて見つめなおし、未来への備えに繋がしましょう。

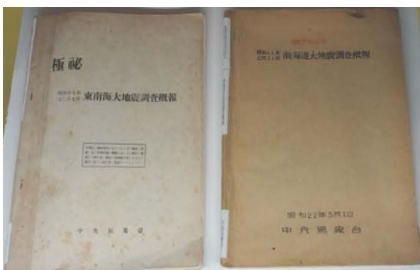
企画展の一部紹介

●3D メガネで南海トラフの海底地形をみてみよう！



南海トラフとは、駿河湾から日向灘沖にかけての海底の溝状の地形を指します。深さは 3,500m～4,000m ほどあり、富士山が丸ごと入るぐらいの深さです。この地形を、3D メガネで体感できます。

●南海トラフ地震の調査記録



1944 年 12 月 7 日と 1946 年 12 月 21 日に約 2 年の間隔を空けて発生した昭和東南海地震・昭和南海地震の調査記録です。当時の中核的な役割であった中央気象台や、各地に配置された測候所等からの調査・被害報告等がまとめられています。

●地震が起こる原因となる『断層』を感じよう！



今から約 30 年前の「1995 年(平成 7 年)兵庫県南部地震」では、神戸や淡路島を中心に甚大な被害が発生しました(阪神・淡路大震災)。

この地震を起こした原因の一つに「野島断層」があります。野島断層の断面を撮影したパネルを背景に、気象庁マスコットキャラクター「はれるん」、「ぼるけん」と一緒に記念撮影ができます。

画像提供: 北淡震災記念公園野島断層保存館

参考:

・大阪市立科学館ホームページ「企画展 昭和南海地震 80 年 地震の科学 ―記録が語る過去、科学が解く仕組みと備え―開催！」

<https://www.sci-museum.jp/press/20260708/>

・大阪市立科学館へのアクセス

<https://www.sci-museum.jp/info/access/>

日時	2026 年 7 月 18 日(土)～8 月 30 日(日) 9:30～17:00(展示場の入場は 16:30 まで)
場所	大阪市立科学館 展示場 1 階
対象	どなたでも
観覧料	大阪市立科学館の展示場観覧料が必要です。 大人 400 円／学生(高校・大学生)300 円／中学生以下無料
主催	大阪管区气象台、大阪市立科学館

 大阪市立科学館
OSAKA SCIENCE MUSEUM

大阪管区气象台

企画展

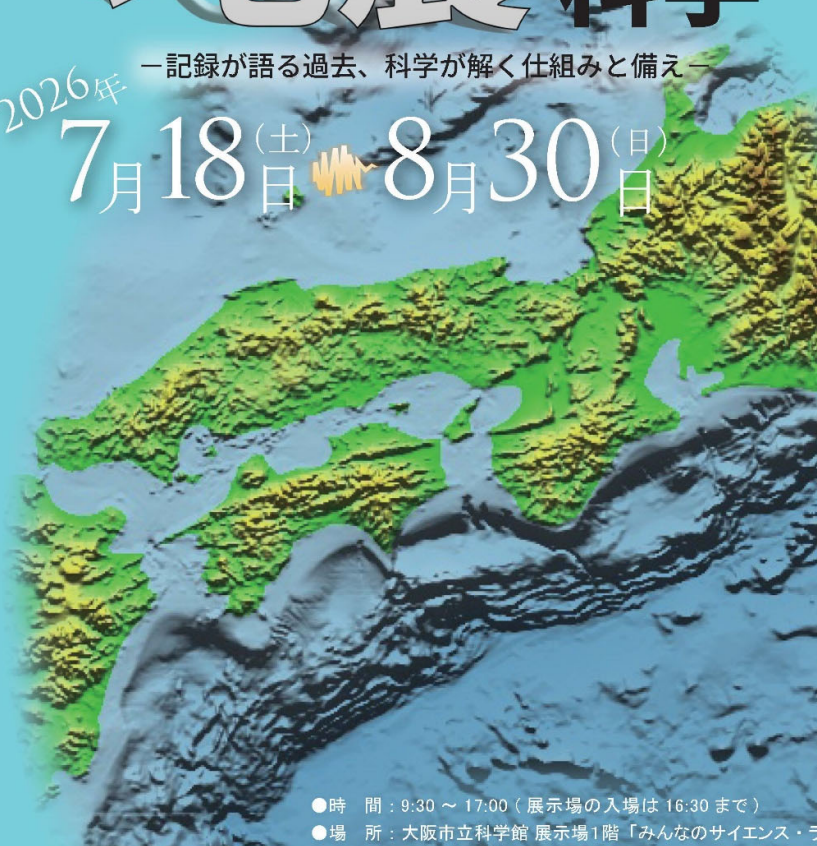
昭和南海地震 80 年

地震の科学

―記録が語る過去、科学が解く仕組みと備え―

2026 年

7 月 18 日(土) 8 月 30 日(日)



- 時 間：9:30 ～ 17:00 (展示場の入場は 16:30 まで)
- 場 所：大阪市立科学館 展示場 1 階「みんなのサイエンス・ラボ」
- 観覧料：展示場観覧料でご覧いただけます。
大人 400 円／学生(高校・大学)300 円
中学生以下無料
- 主 催：大阪管区气象台、大阪市立科学館

企画展 昭和南海地震 80 年リーフレット